

## 社会参画型のハイブリッド型授業実施検証

大類優子<sup>1</sup> 古新薫<sup>2</sup> 筒井洋一<sup>3</sup>

資生堂インタラクティブビューティ<sup>1</sup> 京都堀川音楽高等学校<sup>2</sup> 大谷大学<sup>3</sup>

### 1. はじめに

大谷大学 2022 年後期授業「大学での学びを知る」(2022 年 9 月 22 日～2023 年 1 月 19 日)にボランティア講師として参加した社会参画型のハイブリッド型授業の内容及びそこで得た知見について報告する。2013 年以来、本授業は、常に学外に向けてオープンにし、教員、学生、学外の方がフラットにつながる中で学びを深めようとして来た。講師、見学者の 2 者が参加し、社会参画型として授業を形成してきたのが特徴である。

### 2. 授業のデザイン

大谷大学「大学の学びを知る」は、一年生が履修をする選択必修科目である。社会参画型の本授業ではボランティア講師の役割は、担当教員の補佐ではなく、独立した存在として 15 回分の授業設計・運営を任されてきた。モジュール 1, 2, 3 の定義は担当教員によりされそのモジュールの中でどのような授業を実施するかはボランティア講師に任される。ボランティア講師は海外の教育機関で日本語教育に携わってきたメンバー (A)、企業で IT に携わってきたメンバー (B)、ピアノ教師 (C) のそれぞれの得意な面を活かし、今回の授業では表 1 のように設計した。C は授業を受け持つ他、教室でのサポートをメインに担当し、A, B がオンライン側のリードを行った。授業後には毎回振り返りシートの提出により、下記の項目を学生から収集し、次の授業への改善に利用した。

- 何か新しい発見や学びはありましたか?
- 今日のキーワード 3 つ
- 授業を受けて、新しく始めてみたいこと、取り組んでみたいことがあれば、書いてください。
- その他、授業に関する要望や提案

モジュール	授業	テーマ
1.自分を知る	1	自己紹介で自分を知る
	2	～時間から考える本当の自分とは～
	3	デジタルコミュニケーション
	4	いろいろな「自分を知る」
	5	・「自己を知る」の振り返り ・マインドマップ1
2.仲間を知る	6	TEAMWORK
	7	マインドマップ2
	8	デジタルコミュニケーション2 いろいろな見方を楽しむ
	9	・「仲間を知る」の振り返り ・最終発表説明
3.社会を知る	10	プレゼンのためにペルソナを考える
	11	チームで創る
	12	プレゼン準備
	13	最終発表
	14	最終発表
	15	発表と授業の振り返り

毎回の学生からの振り返りシート提出により、迅速に得られたことの利点は大きい。今回授業の 3 回目でオンラインへの移行も検討したが振り返りシートの内容から、以下 3 つの理由で、15 回目まで講師オンライン、学生リアルなハイブリッド型での授業の実施とした。

- (1) 生徒間の IT 環境の格差
- (2) 生徒間の IT リテラシーの格差
- (3) コロナ禍によるリアルなコミュニケーションの減少

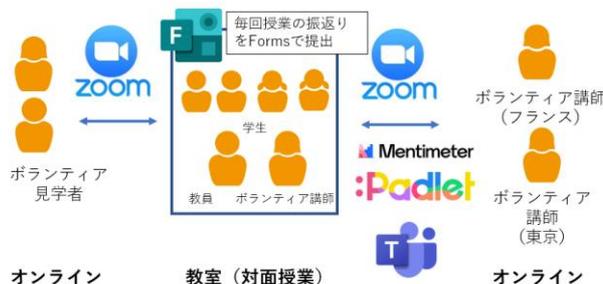


図 1. 今回のハイブリッド型授業の概念図

図 1 で示すように、大学では、M365 が学生、教

Study of hybrid learning on social participation  
 1Yuko Ohruai Shiseido Interactive Beauty  
 2Kaoru Konii, Kyoto Municipal Horikawa Senior High School  
 3 Yoichi Tsutsui, Otani University

表 1. 講義テーマと学び

員が使える状態だがボランティア見学者もいるため、Zoom を授業の配信ツールとした。ほとんどの授業で講師がオンライン側にいるため、授業前半は Mentimeter、Padlet、Jamboard を利用し、学生の授業中の活動の可視化を行った。授業の後半には Teams を使い PowerPoint を共有し各グループの発表資料を格納し、進捗の確認を実施した。授業の準備は毎週の Zoom 会議、Facebook チャット、Slack での情報共有を実施した。活動初期段階で、ツールを決めておくことがオンラインの活用では非常に重要である。

### 3. 授業の実施

本授業では各回必ず授業メンバーとのコミュニケーションを行うように授業を設計した。モジュール 1 の自己を知るでは対話型、その他のモジュールではグループディスカッションを通し自分で考えるのみではなく自分以外の人とコミュニケーションをとるスタイルとした。そのため、コロナ禍での対面でのコミュニケーションが不足した状況が続いたため、授業の中での振り返りが当初、話すことが楽しいというコメントが多く存在した。また、振り返りシートにより以下の検討も迅速に行えた。

- 教室のスピーカーの音量の見直し
- オンライン・リアルの授業形態の検討

オンライン側ではわからないコメントで、この振り返りシートは教室の状況がわかる手助けになっていた。オンラインで授業に出ることが初の学生が多く、各ツールの使い方に最初は戸惑いをもっていたものの、教室での講師、学生同士のサポートもあり、Zoom に参加することは後半には問題がなくなっていた。

### 4. 授業の検証

14 回目の授業で、授業の振り返りを実施した。項目は以下の通りである。

- 授業をオンラインで受けたかった、リアル（教室）で受けたかったどちらでしょうか。
- その理由をお聞かせください
- オンラインに講師がいる授業の形式の感想をお聞かせ下さい。
- 何がこの授業で印象に残りましたか
- これまでの授業を通して何が自分にとって学びになりましたか。
- 講師がオンラインにいることにより、他の授業より学びが浅いと感じましたか。

表 2 で示すように学生は、リアルの方が学生同

士の議論も活発になり、学びが深いという意識を持っており、オンラインで受けたいというのは、家で受けることができるという利便性という点のみであった。

表 2. 学生による授業形態の評価

種別	人数	理由
リアル	24	リアルの方が準備が不要、余計な操作がない リアルの方がコミュニケーションが容易 周りに仲間がいて授業が受けやすい コロナ禍で対面で話す授業がなかったので、対面が良い
オンライン	3	家で受けることができる
ハイブリッド	13	オンラインの練習になる 遠方の方の講義を受けることが可能 級友とはリアルがよい

学生は今回の社会参画型（外部メンバーが講師を勤める形式）に関し、遠くの人や色々な背景の講師から学ぶことに対し、高評価ではあった。この点は、学生にとって社会に数年後に出ることから企業で働いているメンバーとの関係性がプラスに働いていたと考えられる。また、今後オンライン型授業のみになった場合に、注力すべきはどれだけリアルの授業に近づけるかというのも本検証の学びである。

### 5. 今後の授業への提言

日々利用するツール類を使いながら、今後大学を卒業した後のイメージを学生に持たせることができることが社会参画型学習のメリットで 1 つである。今回筆者は 13 回オンライン、2 回大学に行き授業に参加した。筆者は、これまでオンラインでは他機関で授業の経験があったが、初のハイブリッド型授業を実施する場合には、リアル、オンラインを「繋ぐ」役割をリアル側に持っておく必要があることを実感した。リアル側に全体管理をするメンバーがいないとリアルが大多数の時には非常にコミュニケーションを取りづらくなる。これは仕事でも同じであり、リアル、オンラインの空間の違いの場合に非常に「繋ぐ」役割が必要である。今回はボランティア見学者及び事情で参加をオンラインにせざるを得なかった学生のみがオンラインだったため、リアルとオンラインの融合の面では厳しい結果であった。オンラインのボランティア見学者については、ほぼ全員の学生が教室にいたため接点の機会がうまく作ることが出来なかった。ハイブリッド型では関係者の関わり方が複雑になってしまうため、そのための「仕組み」が足りなかったことを実感した。今後ハイブリッド型で授業を開催する際には、関係者の役割定義、授業の中でのコミュニケーションプロセスも一緒に設計することである。